

「人形劇のまち飯田」の季刊情報誌

Dogushi

胴串 -どぐし-

Spring 2015

Vol.9

特集

人形劇のまち飯田で
「わくわく」を体験しよう



Dogushi Vol.9 2015年4月発行 発行：人形劇のまち飯田運営協議会
制作：NPO法人いいた人形劇センター TEL:050-0044 長野県飯田市中町1-2 TEL:050-3583-3594 FAX:050-0044-0904 E-mail: iida-puppet@misjans.or.jp

掲示板 いいた人形劇センターからのお知らせ

新年度会員募集中!

NPO法人いいた人形劇センターは、センターの目的と活動にご理解、ご賛同いただき、活動を支援していただける平成27年度の会員を募集しています。

正会員・賛助会員（いずれも個人・団体）にお申込みいただきますと会員特典として、季刊情報誌「Dogushi」や公演・イベントなどのお知らせを随時配信させていただきます。ごほうご、公演チケットの先行・割引販売、会員相互のネットワークを構成します。皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

<年会費>

正会員5,000円

(企画を提案できます。総会での議決権あり)

賛助会員1口2,000円

(活動を財政面から支えていただきます)

●問合せ:いいた人形劇センター

●TEL:050-3583-3594

●URL:iidapapacen.com

「入会案内」メールフォームからお申込みいただけます。

Dogushi

並木 さんぽ

札幌にて「フィギュアシアター・デザインコース」の成果発表巡回展を行った時のこと。会場に見えた方の「飯田とブラハは憧れの地」という一言に衝撃を受けた。公演だけでなく、誰でも気軽に参加できるものからプロ志向の専門的なものまで、多種多様なワークショップが行われているのがすごくて。こんな所そうはない、と。他地域の方から見た飯田の魅力あらためて実感。今年度もいいた人形劇センターは「人形劇のまち飯田」ならではの充実したプログラムをお届けしますので、ぜひご参加ください。

次号は2015年7月発行予定です。(帆)

表紙イラスト:井原千代子



View of IIDA

今春、飯田の中心市街地に人力車を走らせる「飯田龍車」が誕生しました。車や徒歩では気が付かない街の魅力や観光客のみならず、地元の人々にも伝えます。通常運行は土日祝日。川本人形美術館下、飯田動物園前、三連蔵の3カ所で乗降できます。

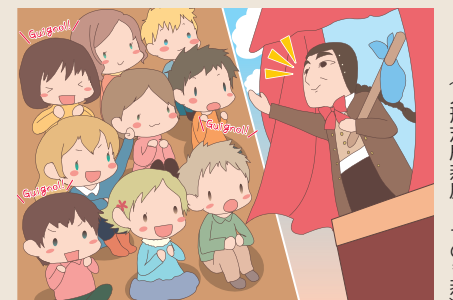
わかる!! 人形劇用語

『ギニョール Guignol』

片手遣い人形によって演じるフランスの人形劇。そして、その主人公の人形の名前。そこから、片手遣い人形というスタイルの事も「ギニョール」と呼んだりもするので、ややこしい。

ローラン・ムールゲ(1769-1844)が考案したといわれている。労働者の娯楽として大人

向けの滑稽な人形劇として始まり、風刺のきいたドタバタ喜劇で人気を得た。現在では多くは子ども向けの人形劇として、悪者を退治する話などが上演されている。フランスの子ども達が大声で「ギニョール!ギニョール!」と悪者がいる事をギニョールに教えたりする姿は、ホントに可愛い。同国のポリシネルPochinelle、イギリスのパンチPunch、ドイツのカスベルKasperle、イタリアのプルチネラPulcinellaなど、各国で愛される道化の人形たちは、彼ら親戚。これらについてはいくつも



の本があるほどなので、今日はこちらまで。
(人形芝居燕屋くすのき燕)

特集

人形劇のまち飯田で
わくわくを体験しよう

人形劇公演はもちろん、人形劇づくりや人形操作、美術制作、こま撮りアニメーションなどのワークショップ、季刊情報誌の発行など、平成27年度もいいた人形劇センターはさまざまにわくわくを発信します。ぜひ予定に入れてご参加ください。

●人形劇「人魚姫」展

4月23日(木)～5月25日(月) 川本人形美術館

3月に飯田人形劇場で上演した、市民がつかめる飯田発の人形劇「人魚姫」。公演で使った人形や舞台道具を展示するほか、1年半に及ぶ制作期間の写真展示、公演映像も上映。

●人形劇講座中級コース(有料)

4月～通年 飯田文化会館ほか

人形劇・演劇の経験者対象。即興表現、身体・発声訓練、人形構造の理解・操作、脚本の読み解きなど、舞台にかかわる人のための基礎づくりを体験。

●季刊情報誌「Dogushi」巻号発行 4月下旬
●ドワーフアニメーション作品上映会

5月2日(土)～6日(祝) 川本人形美術館

上映作品「ほくもま」By Your Sidel

●人形劇を上演したい人のための人形劇公演

5月9日(土) 13:30～ 飯田市松尾公民館ホール

小中高校で人形劇制作に取り組む児童や生徒、アマチュアの市民劇団に向けた人形劇公演。一般の方にもおすすめ。出演／人形劇団京芸おもしろげきじょういぬつえくんとくまざわくわく料金／大人800円、中学生以下500円、3歳未満無料

●人形劇講座初級コース(有料)

5月14日(木)～9月 飯田文化会館ほか

初心者対象。作品選びから人形づくり、上演までを体験。

●沢則行「フィギュアシアター・ワークショップ」

5月下旬～6月中旬、7月下旬～8月上旬 飯田人形劇場ほか

チエコを拠点に世界で活躍する人形劇師・沢則行氏を講師に昨年度実施した「フィギュアシアター・デザインコース」受講者を対象に行う、作品の舞台化に向けた実践講座。

●人形劇の相談所

5月19日～6月23日の毎週火曜日、9月以降随時

いいた人形劇フェスタ上演に向けて人形劇制作に取り組んでいる方のためにより相談所を開設。

●三人遣い体験ワークショップ

6月6日(土) 川本人形美術館下

今田人形座を講師に伝統人形芝居の操演方法「三人遣い」を体験。

●人形劇 in 竹宵まつり

6月6日(土) 川本人形美術館下

「竹宵まつりキヤンドルナイト」開催にあわせ、ましゅ&Keiの「パフォーマンスと、江戸の灯りで楽しむ」人形劇公演。出演／今田人形座「伊達娘恋絆子」火の見櫓の段

●森のかみしばい劇場(有料)

7月5日(日) かざこしじじもの森公園

飯田下伊那の紙芝居・読み聞かせグループによるジヨント公演。

●こま撮りアニメーション・パーフェクトコース
作品上映会

7月中旬 川本人形美術館

「ふるさと飯田」のCM映像完成上映会。

●国際共同制作「少年クラブ」公演(有料)

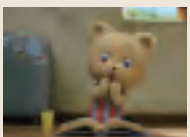
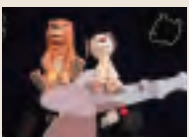
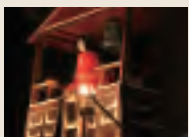
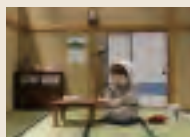
7月25日(土) 26日(日) 飯田人形劇場

日本・ドイツ・ポーランドのアーティストが飯田で共同制作した人形劇公演。

●いいた人形劇フェスタ「ドワーフ」

7月下旬 市内各所

●季刊情報誌「Dogushi」発行 7月下旬



©NHK/dwarf

8月

●いいた人形劇フェスタ2015

8月4日(火)～9日(日) 飯田市内全域 特集・愛知の人形劇

「いいた人形劇センター企画」人形劇「人魚姫」公演、沢則行「フィギュアシアター・デザインコース」受講者による人形劇公演、人形劇の図書館による資料展示・講演会、「人形劇師・沢則行×マリオネット作家・佐久間奏多」トークショーほか

●夏休みアニメーション上映会

8月中旬 川本人形美術館

●ダンボールしまいワークショップ(有料)

9月上旬～10月 川本人形美術館エントランス

獅子を舞う男・後藤渉氏を講師にダンボールで獅子の頭をつくり、舞の練習。10月18日 南信州獅子舞フェスティバルの創作獅子舞コンクールに出場。

●秋の夜長を楽しむ人形劇公演(有料)

9月15日(火) 飯田人形劇場

秋の夜長にじっくりと人形劇を楽しむ大人向けの公演。出演／人形劇団みのむし

●いいた人形劇センタープロデュース人形劇「人魚姫」台湾公演

10月上旬 2015 雲林国際偶戯館に招待参加

●季刊情報誌「Dogushi」秋号発行 10月下旬

●人形劇 in 丘のまちフェスティバル

11月3日(祝) 川本人形美術館

1回の上演約1分、定員2名。日本でいちばん小さい人形劇の公演。出演／P・ことり座

●せかいの劇場(有料)

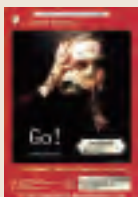
11月下旬 海外の劇団を招聘し、優れた作品を飯田で鑑賞する特別企画。

出演／ポリナ・ポリソヴァ「GOO」(仏)

●森のぼかばかクリスマス(有料)

12月6日(日) かざこしじじもの森公園

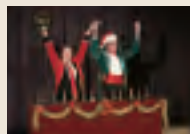
人形劇公演、クリスマスリース&ざわづくりが楽しめるファミリー向けの企画。出演／よろず劇場とんがらし



●ましゅ&Keiのクリスマス会(有料)

12月22日(火) 23日(祝) 川本人形美術館

ましゅ&Keiがゲストとともに繰り広げるクリスマススペシャル企画。ゲスト／山本光洋



●初春を寿ぐ竹田人形館(有料)

1月9日(土) 竹田人形館

初春にふさわしい人形芝居の連続公演。出演／竹田人形座竹の子会ほか



●季刊情報誌「Dogushi」発行 1月下旬

●いいた人形劇まつり「りんごの劇場」(有料)

2月上旬 飯田下伊那のアマチュア劇団による公演。

●保育士人形劇研修発表会(有料)

2月中旬 保育士による研修発表公演。

●春休み人形劇まつり(有料)

3月下旬 川本人形美術館

小さなお子さんから大人まで、みんなが楽しめる作品を上演。

●愛知&いいた共同制作
「人形劇×音楽×若手人形劇家の挑戦」(有料)

3月26日(土) 27日(日) ひまわりホール(名古屋市中)

愛知と飯田のパフォーマーによるコラボ作品の制作と上演。

9月

10月

11月

12月

2016年1月

2月

3月

※日程や内容は変更になる場合があります。最新情報はお電話にてお問い合わせください。いいた人形劇センターのウェブサイトを覗いてください。

Topic News

トピック ニュース 1 今夏、完成上映会 ふるさと飯田のCM

こま撮りの手法を使って「ふるさと飯田」のCMをつくるワークショップ「こま撮りアニメーション・パーフェクトコース」。飯田の水引をテーマに、嫁ぐ孫娘に祖母が水引で結んだティアラを贈るストーリーが、受講者の皆さんによる撮影の積み重ねにより映像になってきました。完成上映会は今夏の予定。お楽しみに。



トピック ニュース 2 受講者募集 人形劇講座 初級コース

- 日程: 5月14日(木)～9月(週1回)
- 料 金: 月1,000円(学生500円)
- 問合せ: ☎050-3583-3594 いいだ人形劇センター

初心者を対象にした人形劇講座を開講します。どんな作品を選んだらよいのか、人形はどうやって作るのか…。いいだ人形劇センターのスタッフと一緒にいるのはいいから体験しませんか。グループでの参加も大歓迎です。

トピック ニュース 3 飯田から始まる アートプロジェクトをカタチに

チェコを拠点に活躍する人形劇師・沢則行氏を講師にした「フィギュアシアター・デザインコース」の成果発表を今冬に行い、受講者19人のうち17人が自身の制作した美術プランをプレゼンしました。飯田に続いて北海道の札幌・岩見沢でも行い、ご来場くださった多くの方に「ぜひ、実現を」という声をいただく中で、これら作品のいくつかを舞台化に向けて制作をすすめていくことになりました。早いものは今夏のいいだ人形劇フェスタで上演となりそうです。ご期待ください。



美しい声とひきかえに人間の足を得るため、魔女がつくったクスリを飲む人魚姫

突撃!!

人形劇の ゲンバ Part9



足の痛みをこらえながら美しく踊るシーンを、人形とバレエの影絵を使って表現



空気の精の世界へとのぼっていくラストシーン。布と照明、劇中歌の相乗効果が印象的

市民がつくる飯田発の人形劇「人魚姫」上演へ

2013年11月にスタートした、いいだ人形劇センタープロデュースの人形劇の制作ワークショップ。1年半の成果を発表する人形劇「人魚姫」公演の「ゲンバ」をおさえるべく飯田人形劇場へ直行しました！

3月6日から8日の三日間、4回行われた公演はすべてチケット完売ということもあり、劇場入口には列ができるほど。お客さんの期待感が伝わってきます。

一方、本番を控え舞台袖で出番を待つ出演者や照明・音響スタッフの表情も緊張に満ちています。いよいよ一回目の公演。音楽にあわせて幕が上がると、人魚姫が15歳に



「僕たちはずっと一緒にいようね」と人魚姫に語りかける王子

最新情報

人形劇「人魚姫」展

4月23日(木)から5月25日(月)まで川本人形美術館交流ゾーンにて。ワークショップの受講者が制作した人形や舞台道具を間近でご覧いただけるほか、制作期間の記録も写真で紹介いたします。

初演のダイジェスト映像公開中
現在、下記動画サイトよりご覧いただけます。

URL:www.iidatube.tv

は、演出家・くすのき燕氏、人形美術家・吉澤亜由美氏指導のもと、原作を読み込んだ後に場面設定や舞台美術プランを考え、人形・舞台美術の制作も受講者の手によるもの。さらに、今田人形座から三人遣いの手法を学び、演技や発声の指導、音楽制作、バレエ、映像効果など、地域さまざまなおアーティストの協力を得て、まさに「市民がつくる」飯田発の人形劇の完成となりました。今後はいいだ人形劇フェスタ2015での再演、他地域や海外での上演をめざします。

今回の人形劇「人魚姫」は、演出家・くすのき燕氏、人形美術家・吉澤亜由美氏指導のもと、原作を読み込んだ後に場面設定や舞台美術プランを考え、人形・舞台美術の制作も受講者の手によるもの。さらに、今田人形座から三人遣いの手法を学び、演技や発声の指導、音楽制作、バレエ、映像効果など、地域さまざまなおアーティストの協力を得て、まさに「市民がつくる」飯田発の人形劇の完成となりました。今後はいいだ人形劇フェスタ2015での再演、他地域や海外での上演をめざします。

Library Cafe

飯田とつながる世界の人形劇図書資料から⑨

『土くれの語り部たち-木地師と遍路と地芝居と』

同志社大文学研究会の共同研究で、第一章が四国遍路、第二章は近江の木地師、そして第三章「土くれの匂いのする舞台」(山田和人)が、清内路の神楽、花火、上郷、高森の地芝居、黒田、早稲田の人形芝居、雨乞い、神送りなど。なかでも『黒田人形』の著者日下部新一氏への聞き取りは短く断片的ではあるが、上方から流れてきた人形の「師匠」たちの捉え方が明快で、また氏の語り口を文章にそのまま残しているのも興味深い。1970年代は日本各地の伝統人形芝居が存在を再認識され、国立劇場の「人形芝居の系譜シリーズ」や各種出版、TVなどでも取り上げられた時代であった。

(人形劇の図書館館長・湯見英明)



広川勝美 編 創世記刊(1976年)

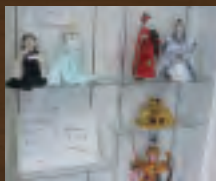
飯田文化会館に隣接するピンク色の建物。1988年8月に「人形劇カーニバル飯田」10周年を記念してオープンした飯田人形劇場は、全国で4番目に完成した公立の人形劇場です。毎年8月に開催される「いいだ人形劇フェスタ」期間中には連日公演が行われるほか、伊那谷文化芸術祭、市民による文化・芸術活動の場として、年間を通じて多くの人々に利用されています。平成26年度は人形劇の上演をはじめ、人形劇活動での利用率が年間4割を超すまでになり、人形劇場で人形劇を観劇しよう、上演しようという機運

「飯田人形劇場」の巻

いいだ再発見



いいだ人形劇フェスタ期間中はフェスタのワッペン看板や参加劇団の顕彰旗が飾られ、にぎやかに彩られます



2008年に韓国・台湾・日本で最大規模の人形劇祭を飯田に開催する3団体が「東アジア三大人形劇祭友好提携」を結んだことを記念に贈られた人形がワイエに飾られています

飯田の絵巻は飯田在住の画家・北島新平が描いた「かごこし姫となかまたち」。人形劇カーニバル飯田実行委員会から寄贈されました



が高まっているように感じられます。飯田人形劇場には何回も公演を観に行っている、という人でも見過ごしてしまいがちなのが、ワイエの展示ケースに飾られている表彰状の数々。「人形劇カーニバル飯田」「いいだ人形劇フェスタ」が地域の伝統文化を生かした文化活動を行ってきたこと、人形劇を通じて国際化を図る活動などが認められ、企業や文化団体からさまざまな賞が贈られています。これらを見るだけでも飯田市が世界に誇る「人形劇のまち」であることを再認識できます。

「パペ・バラ」。中堅人形劇人を中心に、あらゆる角度から人形劇の魅力を掘り起し、人形劇の付加価値を高めんとする取り組みです。体ほぐし、バレエストレッチ、ヨガ等のボディワークメニューからはじまり、数々の人形劇・演劇表現ワークショップも行い、現代人形劇の先輩たちにはトーク・カフェと銘づつての二十人程のお話会。ときに先達の「人形を動かすのは誰にでもできるけど、遣う」ということは誰にでもできることではない「敵しい言葉が聞ける者たちの頭上を快く流れたものです。けつして多くはない集いの会ですが、このような試みから人形劇界活性への糸口がひとつも見いだせたら、関東の片隅から全国へもお届けしたいとも想っております。電話をかけていた者から笑みがこぼれるとゲスト承諾である。協会を超えて多くの方々と人形劇の魅力再発見・再発信、今後も続けていきます。皆さんの声もお待ちしています。



伊豆木人形クラブ 飯田市三穂地区に古くから伝わる「伊豆木人形」。人形のかしらは保存されていたものの上演は途絶えていましたが、平成19年に地域の宝として復活させようとの声が上がリ、伊豆木人形クラブが誕生しました。現在は地区の子どもも日々練習に励んでいます。

伊豆木人形クラブ



相澤未来さん、滝沢向星さん、玉置彩さん、林璃子さん、木下翔太さん(写真上段左から)は今春高校生になり、ひとまずクラブを卒業。先輩を見送りクラブのこれからを担うのは小学生の木下美緒さん、岩下知央さん、井上明日奈さん、前澤有美さん(写真下段左から)

練習が始まるとそれまでにぎやかに話をしていく表情が一変し、きりつと口を真文字に結んで鋭いまなざしに。真剣さが伝わってきます。「主遣いは自分がリードしながら堂々と。左遣いは主遣いをサポートして人間らしい動きを出すことに集中している」と話す滝沢向星さん。さらに、クラブ長の木下翔太さんは「伝統芸能が身近にあり、触れることができるならやってみようと思ったのがきっかけ。6年続けた伊豆木人形クラブは自分にとってかけがえのないものになった」と話します。「敵しいことを言う時もあった。でも泣きながらもどうしたらよいか教えてほしいと向かってきてくれたことがうれしくてね。それが素晴らしい演技につながっている」と指導にあたる木下文字さんは子どもたちの成長を感じています。



5月16日に東京で行われる信州飯田ふるさと会に招かれ、「寿式三番叟」「傾城阿波の鳴門 順礼歌の段」を上演。これが卒業公演となる高校生5人は「人形に感情を込めて、お客さんに伝えたい」と熱く語ってくれました

劇人協会通信 映像と人形・人形劇その3

日本人形劇人協会 高橋 弘一

日本人形劇人協会 舞台や映像番組で活躍している実演家と人形劇に係わる仕事を職業とする専門人形劇人の組織。人形劇人相互の親睦交流、活動条件の改善と社会的芸術的地位の向上をはかることを目的に1967年に設立されました。

「いらつしゃいませパペ・バラ」

夜の帳が都会のネオンで掻き乱される新宿駅。少し離れたカフェ。そう多くない客席の奥に陣取る。まわりに人気がない中、数人のスタッフで来々月のパペ・バラメニューとゲストを話し合う。スタッフが全員揃うことはまずない。毎月「人形劇の魅力再発見」「再発信」を合言葉に当協会事業企画部が年間フルに人形劇人が集い「想い」や「スキル」を分かち合いを鍛えんとするリフレッシュ講座です。この日も、互いの僅かな時間を割いてのミーティング。まさに自転車操業である。どちらの組織の方々も似たような苦勞がありでしょうが。話が始まりすぐにその場で候補のゲストに連絡をいれる。電話の先で人形劇の話に花が咲く。実にうれしい時間でもあるが。さて、パペット・バラエティーをもじつての